

新年のごあいさつ

謹んで新年のお祝い申し上げます

当訪問看護ステーションは、2 回目の新年を迎えることができました。利用者様と一年を振り返りながら、自宅で年を越せる喜びを共に実感することができ、無事に迎えられたことに安堵しております。

2020 年は、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、大変な一年となりました。コロナの警戒から、人の往来や交流が遮断され在宅勤務が推奨される中、私たち訪問看護師は人と密に関わっていかねばなりません。当訪問看護ステーションも、感染対策を取りながら、利用者様とご家族の健康と安心を守るために奮闘した一年でした。病棟で勤務していた頃と違い、利用者様と関わる期間は年単位です。病気だけでなく、その方の人生に携わっていくことができる訪問看護にやりがいと責任の重たさを改めて実感しております。

今年も「あなたらしさにより添う看護」を理念に心のこもった温かい看護が実践できるようスタッフ一丸となって頑張っています。一日も早くコロナが収束し、2021 年が皆様にとって良い一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

今年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

所長 柴尾 裕加里



毎日の日課
通勤の人の迷惑にならないようにと、以前からの日課として自宅前通りの掃き掃除や庭の手入れを毎朝早く続けている。

いつもきれいに整理整頓
庭から室内までいつも整理整頓されており、こたつ布団もきれいに広げている。

本人の強い思い
娘に迷惑をかけたくないという強い思いがあり、介護力が増えてしまうから転倒だけはしないようにと足腰を鍛えるために、天気が良く体調の良い時は家の周りを散歩している。「あの世に行くまでは人に迷惑をかけないようにしたいです。」という。

自分なりの対処法
時々、胸苦しさや息苦しくなることもあるが、「そういう時はじっとして落ち着くのを待つんですよ。」と自分なりの対処法で過ごしている。

水分管理
シャント管理は理解していないが、透析に通っていることはわかっており、穿刺部を傷だと思いきや大事にしている。水分や食事の厳密な管理は困難だが、「足が浮腫むと転ぶから飲水を控えている」という。

利用者様の今

能力全開

傾聴・見守りで生活により添う

80 歳代 女性 独居
末期腎不全 シャント造設し、週 3 回透析に通院中
認知力低下著しく、水分や食事管理をすることは困難
心疾患もあり、胸部不快や息苦しさが出ることもある。
貧血や筋力低下あり、歩行時にふらつき、転倒の危険が高い。

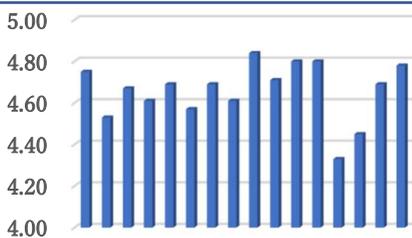


入院中・・・
歩行時のふらつき、ナースコールが認識できず、内服薬や水分摂取量は看護師が管理、センサーマットで行動が監視されていた。入院や透析をしたことも覚えておらず、シャント管理も困難な状況であり、病棟看護師は自宅療養が困難な印象をもっていた。しかし、娘は自宅に帰れば病院にいるよりも少ししっくりとし、なんとか生活できると思っていた。

内服管理
介入当初、内服薬は看護師が 1 週間分を内服箱にセットし自分で内服していたが、過剰内服がわかり、ヘルパーと看護師が訪問時に与薬する方法に変更し、過剰内服を防ぐことができています。

情報交換 (運携)
透析クリニックとの連絡帳で体重が増加していることや自宅での生活状況等を情報交換をしている。

持てる力を信じて支える「傾聴と見守り」
認知力の低下=1 人暮らしは不可能と思ってしまうが、その人の持てる力を信じて支えることで、不可能と思いがちなことを可能にできました。 訪問看護師 渡邊 明香



＜すがの訪問看護ステーションの気になる項目の評価＞

開設 1 年目を過ぎた昨年 9 月、利用者の担当介護支援専門員の皆様
①介護支援専門員との関わり、②関係会議への関わり、③訪問看護師姿勢や態度、④利用者の訪問看護サービスへの思いについて評価をおいし、ご多忙の中ご協力を頂きありがとうございました。

頂いた評価をしっかりと受け止め、職員一同、更に高みを目指してまいりますので引き続きご指導・ご協力をお願いいたします。